

令和5年度 佐世保特別支援学校 北松分校 学校評価の結果 及び 成果と課題

1 学校評価アンケートの実施期間

- 令和5年12月11日(月) ~ 12月22日(金) * 2週間

👁️ : 考察

👉 : 改善策

2 回収率

- 保護者 63% (27 / 43世帯) * 昨年度82%
- 教職員 88% (30 / 34名) * 昨年度88%
- 児童生徒 89% (39 / 44名) * 昨年度、実施数が少なくデータなし

👉 今年度の回収率・実施状況において、保護者の回答率の低さが課題となった。期間中にメールメイトによる提出の促しを行ったり、WEB回答もしくは紙媒体での回答も可としたりしたが、このような結果となった。改めて、PTA総会等での「学校評価の意義や目的」を説明するなどの工夫が必要である。また、今年度は、児童生徒の回収率が高く、「子供たちの声」を学校運営に生かすための材料を集めることができたことは成果であった。

3 アンケート結果及び考察

【改善策を検討する視点】

- 平均値が **2.5ポイント**を下回った項目。
- 達成度が **75%**を下回った項目。(評価3もしくは4を付けた方の割合)
- **自由記述の意見**の中で、改善策の検討又は望ましいと判断された項目。

(1) 保護者アンケートから

①「Q：学校は、小学部、中学部、高等部を通じて、一貫した指導に努めている。」【評価：3.0 達成度74%】

👉 この項目では、評価の平均値としてはクリアしているが、評価1もしくは2を付けた方が一定数いたために、達成度が75%を下回った。校舎が離れているために、各部の様子や取組が保護者の方には把握できにくいことが要因であると考えられる。

👉【改善策】

- ・小中高のつながりのある合同行事などのアイデアを一つ一つ実践していく。また、その取組をホームページ等を活用して、保護者へお知らせする。
- ・学部を超えた授業見学やケース会への積極的な参加について、より声掛けをしていく。また、その取組を保護者へお知らせする工夫を行う。
- ・教員学部間体験研修を推進する。
- ・PTA研修などで、例えば進路指導をテーマに保護者間で学部を超えた内容を共有できるような場を設定し、互いの学部の取組を知ってもらう機会を作る。

②「本校からの PTA 研修会の文書が北松分校に届くのがかなり遅かったようである。多くの保護者が子供のために多くの情報収集ができるように、北松分校へも速やかに届けてもらいたい。」【自由記述】

☞このご意見については、PTA 担当である教頭の保護者への伝達と情報収集が課題である。今年度、本校と北松分校の PTA 役員さん同士のつながりにより、本校の PTA 研修会に参加できるようになったが、本校からの案内が期日間近であったことも要因である。

📌【改善策】

- ・PTA 会員が参加できる研修会等の案内が届いた時点で、速やかに北松分校 PTA に周知することを徹底する。
- ・各種保護者向け、PTA 会員向けの研修会の情報収集に努める。

③「学校自体が準備している備蓄品を見せてもらった事も、何を準備していると提示された事もない。学校は災害備蓄品に関して、保護者負担と保護者管理にしており、就学奨励費の対象としていない。学校で起きた災害は学校が準備すべきであると思う。」【自由記述】

☞先般の能登半島地震の状況を考えると、最もなご意見である。まず、災害時の備蓄品を含めた学校の対応を家庭へ十分に周知できていないことが考えられる。なお、ご意見にある食料等の準備については、基本的に非常時持出袋で対応するように各家庭にお願いしている。このことを、確実に周知する必要もある。

📌【改善策】

- ・現在、北松分校として、災害時用として、在籍する児童生徒と職員約 80 人分の 1 日分の長期保存水を備えている。この備蓄品に加えて、学校としての災害対策や災害に対しての考え方をホームページやプリントで、保護者向けに説明するようにする。
- ・食料等の備蓄品については、原則保護者が準備することを理解してもらう必要がある。そのために、入学者説明会や学級懇談、PTA 総会等で、非常時持出袋や備蓄品の説明を行うようにする。

④「玄関に鳥のフンが数日落ちていた。鳥のフンはカビ等が含まれ健康上良くないと聞いたことがある。子供の健康のために気をつけてもらいたい。」【自由記述】

☞基本的に、各部とも毎日、清掃を行っているので、それほど頻度が高い状況ではないと考えられる。

📌【改善策】

- ・玄関等に鳥の巣があった場合は、衛生面から撤去するようにする。また、玄関に限らず、汚れていたら教員同士で声を掛け合って掃除をするようにする。
- ・校内美化を担当する保健体育部から、上述の件について注意喚起を行う。

⑤「授業参観は午後に実施して欲しい。」【自由記述】

☞昨年度も同様のご意見があったため、改善して「長崎っ子の心を見つめる教育週間」の期間中は、保護者が終日参観できるように工夫したが、周知不足であった。ただし、午前中が参観しやすい保護者もおられるため、全ての授業参観を午後開催にすることは難しいと考える。

📌【改善策】

- ・次年度は、1 学期だけではなく、2、3 学期も、授業参観週間または終日参観日を設け、自由に参観できるように改善を図る。

⑥「学級便りが少ないように感じます。」【自由記述】

👉学級の実情によって、発行頻度に差があることが要因であると考えられる。ただし、学級だよりの作成については、働き方改革との関連で、保護者へお知らせする内容や方法を工夫する必要がある。

👉【改善策】

- ・小中学部は、概ね月1回程度は、発行しているので継続するとともに、発行回数が少なかった高等部は、学部通信を出すなどの工夫を行う。
- ・ホームページでの活動掲載を積極的に行い、それを保護者にお知らせしていく。

(2) 教職員アンケートから

⑦「教育課程の編成は生徒の実態に即したものが、検討する時間があっても良いのではないか。文科省からのお達しだからしなければいけないという説明だけでは、なかなか納得できない。週時間数の変更は、管理職から説明があっても良いのではないか。」【自由記述】

👉教育課程の編成については、P(計画)－D(実施)－C(評価)－A(改善)のサイクルで行うために、その年度の実践を受けて評価をした上で、次年度の計画を検討していく流れであるために、検討する時間が十分に取れないことが要因であると考えられる。また、教育課程の枠組みとなる時数(週時間数)の変更については、教育課程委員会と学部会が連動して協議することが必要で、その取組が十分でなかったことが、後段の意見の要因であると思われる。

👉【改善策】

- ・次年度の教育課程編成においては、協議事項を精選しながら早い時期(夏休み前)から、計画的に時間を掛けて検討する。
- ・教育課程編成は、県内及び全国の動向を踏まえて、基本方針を教育課程委員会で検討し、その後各学部へ提示しながら、内容を検討している。また、教務部から、たたき台を提示し、具体的なイメージを示すようにしている。今後も、これまでの他校での経験や取組を参考にしつつ、新しい動向も踏まえた建設的な意見を出し合いながら、教育課程編成に当たっていくようにする。
- ・週時数の見直しについては、本校の見直し・変更を参考に、分校でも検討したが、協議時間が十分に取れず、次年度以降の持ち越し課題となった。新年度になって再度提案し、検討したい。

⑧「今の流れが教科学習の方に向いていることは理解しているが、『生徒の実態等に合った内容を精選して指導すること』が大前提にあるのではないかと思うので、そこを保障できるように、柔軟な対応が可能な教育課程であることが望ましいと思います。」【自由記述】

👉指導観や教育課程に関する個々の教員の考え方に差異があることは、決してマイナス面ではない。個々の考え方を擦り合わせながら、学校全体としての方向性をまとめ、教育課程編成を進めていくことが大切であると考えられる。

👉【改善策】

- ・編成作業を進めるに当たって、学習指導要領の解釈や教育課程編成の基本方針を全体で共通理解できるような工夫を行う。

⑨「休憩時間になかなか休憩を取りづらい雰囲気がある。」【自由記述】

☞働き方改革の流れで、退庁時間を段階的に早くするような取組を行っている一方で、この意見のように、下校後の休憩時間に、デスクワークを中心に業務をしている現状がある。ただし、個々の教員の業務のペースもあるため、「休憩を取りづらい雰囲気」を改善していく必要がある。

👉【改善策】

- ・個々が意識し、休憩時間に話し合いや作業を設定しないようにする。管理職からも積極的に声掛けをする。
- ・中堅やベテランが積極的に休憩をとる姿勢を見せ、職員室の雰囲気の醸成を図る。
- ・休憩時間には、業務の相談などを話し掛けないようにするなど、相手を拘束するような関わりを「意識してしないようにする」ということを、全体で共通理解する。あくまでも、休憩時間は「個人」の時間として捉えるような意識改革を全体化する。

(3) 総合評価、自由記述から

- ・いつも適切なご指導をいただいているので、感謝しかありません。ありがとうございます。
- ・先生方が笑顔で対応してくださるので、こちらも安心して話すことができます。また、お忙しい中にもこまめに連絡をいただくので、自宅での声掛けに生かします。
- ・全体が温かい雰囲気なので、子どもも安心して登校できているようです。
- ・子どもが中学生の頃はまだ中学部がありませんでしたが、中学部から通学できていれば、生活力などがもっとういたのではないかと思います。先生方には感謝しています、いつもありがとうございます。
- ・北松分校に通わせて本当に良かったと感じています。楽しい高校生活と良い先生方に恵まれ、今後どんな人生が待っているのかわかりませんが、友達や先生のことを思い出しながら、少しでもより良い人生を送れたらと願ってやみません。

4 総括（成果と課題）

- ① 今年度は、コロナ対応が緩和され、PTA 活動も以前に戻りつつある。北松分校が、コロナ禍の中で開校したこともあり、特に PTA 活動の在り方については、模索しながらの 1 年間であった。PTA 研修の在り方や、PTA と連動した災害時の対応など、次年度の課題として改善していきたい。
- ② 今回、保護者及び教職員からの評価やご意見について、各学部と各分掌部で改善策を検討した。この改善策の実効性を十分に検討しながら、次年度のより良い分校運営に生かしていきたい。また、教育課程編成については、全体での共通理解の促進が課題として残った。効率的で有効な話し合い活動を工夫しながら、「より良い教育課程の編成 → より良い児童生徒のための教育活動」という意識を高めていながら、児童生徒の実態、地域の実情、特別支援教育の動向などに応じた編成作業を行っていきたい。
- ③ 日々の教育活動に真摯に取り組み、児童生徒と保護者にとっての「学びやすい学校づくり」、教職員にとっての「働きやすい・やりがいのある学校づくり」を目指していきたい。そのためにも、一層の教育活動等の充実化を図りながら、並行して教職員の「働き方改革」を進めていくことが重要である。業務のスリム化・縮減を図りながら、教職員が心身ともに健康で、働きがいのある職場づくりに向かうことで、活気があふれ、魅力ある学校づくりへとつなげていきたい。